

経営比較分析表（令和4年度決算）

茨城県 水戸市

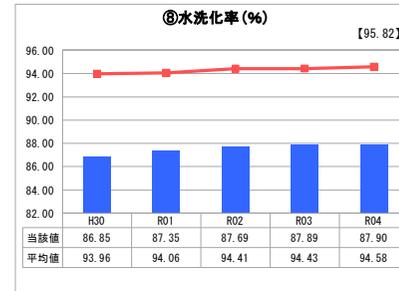
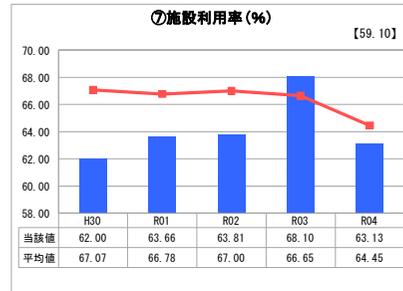
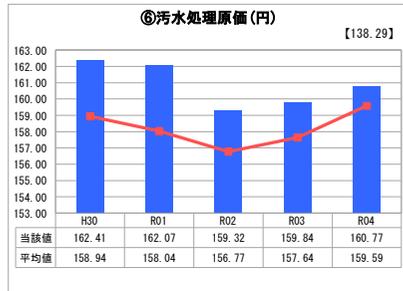
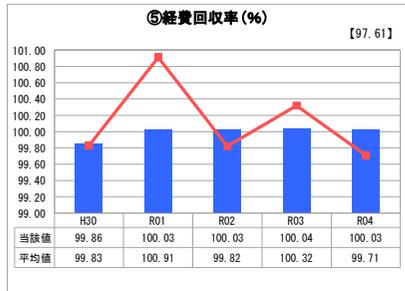
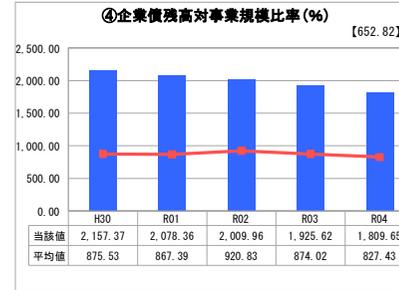
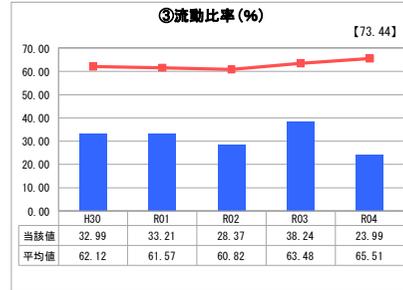
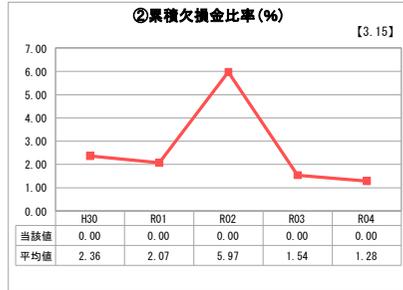
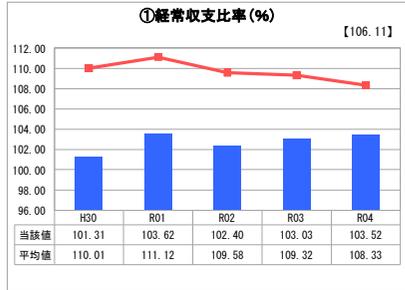
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	55.41	80.53	68.16	2,989

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
270,010	217.32	1,242.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
216,123	49.57	4,359.96

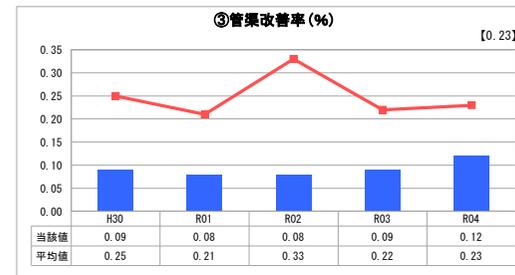
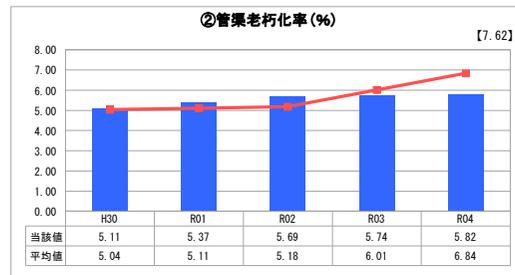
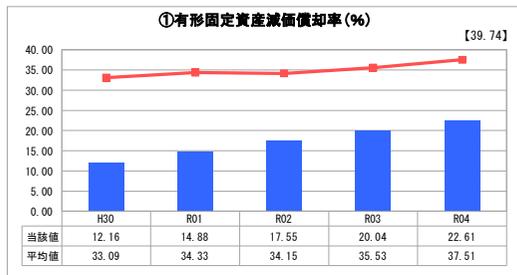
グラフ凡例

- 当該団体の値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
引き続き100%を超えているが、収益の約1/3を一般会計補助金で賄っている。引き続き、使用料収入の確保と維持管理費の削減に努める。

②流動比率
企業債の元金償還が多いため、類似団体平均値と比較して低い値となっているが、特に燃料費等の増加により指標が悪化した。なお、前年度は年度末時点の未払が多く、現金が多く残ったため、平年よりも流動比率が高かった。

③企業債残高対事業規模比率
企業債の新規借入抑制により企業債残高は減速しているが、類似団体平均値と比較して高い値であり、引き続き借入抑制を継続する必要がある。

④経費回収率 ⑤汚水処理原価
「分流式下水道等に要する経費」の繰入により、経費回収率は100%以上を維持している。しかし、繰入金に依存した経営状況が続いているため、引き続き維持管理費の削減に努めるとともに、使用料の水準について定期的に検討する。

⑦施設利用率 ⑧水洗化率
施設利用率は、合流式管渠の雨水処理のために余力を確保しており、類似団体平均値より数値が低くなる傾向がある。前年度は、雨水の流入量の増加により施設利用率が急上昇したが、例年並みの水準に戻った。
水洗化率は、整備人口が増加中のため、類似団体平均値を下回っている。広報活動や戸別訪問など普及啓発活動により改善していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
法適用からの経過年数が短く、減価償却累計額が小さいため、値も低くなっている。

②管渠老朽化率 ③管渠改善率
管渠老朽化率は類似団体平均をやや下回るものの、増加傾向にある。管渠改善率は類似団体と比較して低いが、事前に改善の必要性の調査を実施したうえで施工箇所を設定しており、効率的かつ効果的な改善に努めている。引き続き、ストックマネジメント計画に基づき、適切な時期に改築・修繕工事を実施していく。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性について」は、企業債残高が類似団体と比較して多いことが、各指標を悪化させる大きな要因となっている。さらに、燃料費等の高騰により、費用が増加しており、流動資産にも余裕がない。使用料収入は右肩上がりであり、短期的には普及率・水洗化率の向上に伴い増加している見込みであるが、長期的には人口減少等の社会情勢から減少が避けられないと考えられる。新規・更新投資のベース管理に留意しながら、使用料収入の確保や維持管理費の縮減など、引き続き経営基盤の強化に努め、将来にわたる安定的な事業体制を構築していく。

「2. 老朽化の状況について」は、ストックマネジメント計画に基づく管理により、ライフサイクルコストの低減と安定的な施設運営に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。